

# Post Book Review

山内昌之  
長崎大学特任教授



大学の長崎ガイド  
——こだわりの歩き方  
長崎大学多文化社会学部 編  
木村真樹 責任編集  
昭和堂  
2300円+税

五島列島福江島の東シナ海に突き出た丸い半島の突端に空海の石像が立っている。偉大な先人の「辞本涯」の碑を最初に見た時の感動を忘れられない。また一八七一年に、上海との海底ケーブルによって第一歩を印した国際通信の起点も長崎であった。遣唐使、朝鮮通信使、オランダ貿易船も必ず今の長崎県の地を通ったのである。世界と過去につながる国際性の豊かさで長崎は日本屈指の県なのだ。対馬や壱岐を含めて面的な広がりをもった国境地帯の魅力が扱った本書は、長崎大学多文化社会学部の編集になるだけに、まさに「大学的ガイド」として高い水準の案内書である。それでいて非常に読みやすく面白いのだ。

端島を軍艦島と呼ぶのは誰でも知っている。しかし、その名がワシントン会議の軍縮によって廃艦となった戦艦「土佐」に由来する事を知る人は少ない。この「土佐」を愛惜した丸山芸者・愛八の歌は、「土佐は好子じゃ」で始まるが、これほど切ない好曲も少ない。三菱重工長崎造船所が造った「武蔵」も812日間で短い艦齢を終えた悲劇の船である。世界最大の巨艦の進水時、長崎港の水位は一時的に上昇し、対岸の浪ノ平では床上浸水が発生した。「武蔵」

## 国際性豊かで面的な広がりをもつ国境地帯の魅力を案内

を設計した優秀な技師、建造に当たった不屈の造船工、乗艦した人びと、「それぞれが抱える想いは否定されるべきものでは決してない」という指摘は重い。

- 17世紀のチョコレート(ココア)カップに有田焼が多かったのも驚きだ。長崎・台南・マニラ経由でアカプルコに輸出され植民地スペイン人に届けられたのだ。江戸時代長崎の4つの町空間も興味深い。
- ①町人や地役人、②長崎奉行と下僚たち、③九州各藩蔵屋敷の武士、④オランダ人と唐人。

隠れキリシタンから原爆体験まで歴史的教訓と反省を込めた案内も貴重である。この懐の深い町を知る上で信頼できる案内書が出たのは嬉しい。今秋の「くんち」などで長崎を訪れる人だけでなく、すべての日本人に是非読んでほしい本である。

この人に読め!

週刊ポスト

2018. 8. 31号 (29号)